

# 施設 白書

概要版

# 2018

平成 30 年 1 月 杉並区



ウェルファーム杉並（天沼三丁目複合施設）複合施設棟  
完成予想図



馬橋複合施設（平成 29 年 7 月竣工）



SUGINAMI CITY

# 1 はじめに

- 区では、持続可能な財政運営を図りつつ、時代とともに変化する区民ニーズに的確に対応し、快適で安全・安心な施設サービスを提供するため、区立施設再編整備の取組を進めています。



区では、昭和30年代から40年代にかけて、多くの区立施設を整備してきました。これらの施設は、老朽化に伴い、今後、次々に更新時期を迎えることとなります。首都直下地震の発生も予想されるなか、区立施設の老朽化に的確に対応し、区民に安全・安心な施設サービスを提供することは区の重要な責務です。

しかし、改築・改修経費等をはじめ、施設を維持していくための経費は、大きな財政負担となります。一方で、中・長期的に見れば人口減少は避けられず、生産年齢人口の減少により区民税収入が右肩上がりが増えることは期待できない状況です。さらに、女性の就労率の変化や高齢化の進展に伴い、社会保障関連経費の支出は今後とも増加していくことが予想されています。

また、多くの区立施設を整備してきた当時と比較すると、この間の人口構造の変化やライフスタイルの多様化などを受け、需要に対して不足している施設がある一方で、必ずしも十分に活用されていない施設もあるなど、施設に対するニーズも変化してきています。

このような課題認識のもと、区では、区立施設の再編整備に取り組んでまいりました。このたび発行する施設白書は、今後の効果的な取組につなげるための基礎資料として作成したものです。本書を通じて、区立施設の現状や課題について理解を深めていただき、施設の将来のあり方について考えるきっかけとしていただきたいと思います。

# 2 人口の状況

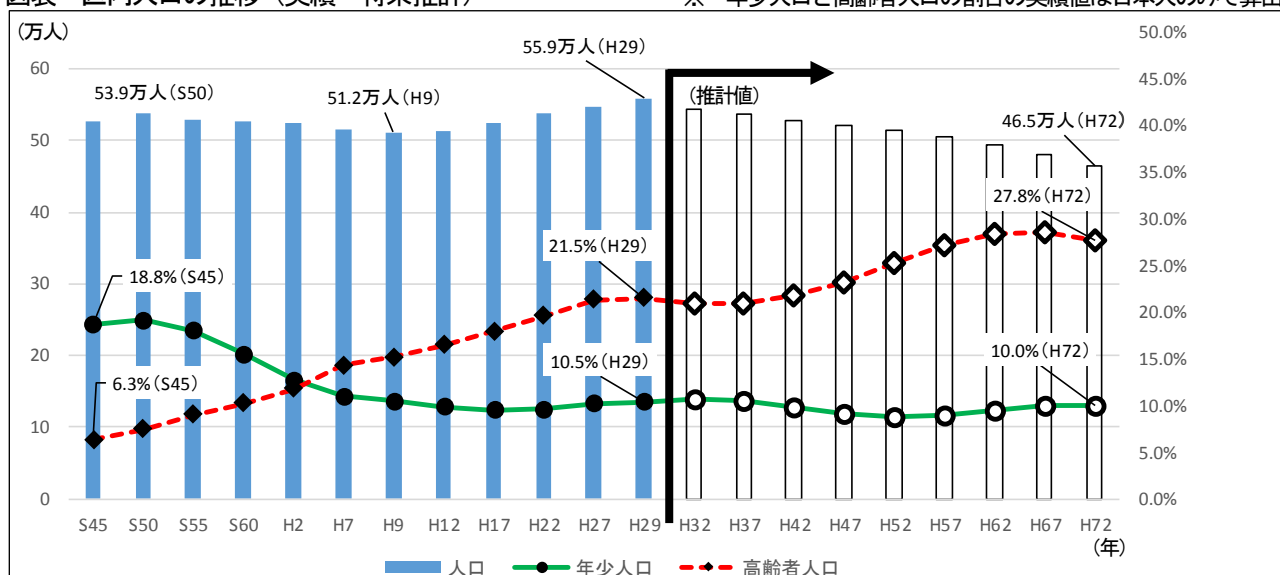
- 区の人口は、現在は増加傾向ですが、中・長期的に見れば減少が見込まれます。
- 人口構造は変化しており、高齢者人口の割合が高まっています。



区の人口はしばらく増加すると考えられます\*1。ただし、近年の増加の主な要因は、区外からの若年層の転入によるものであり、日本全体で人口減少が進行することにより、区に転入して来る若年層も減少することは避けられません。そのため、区においても中・長期的な視点で見れば人口減少に転じるとともに、少子高齢化の一層の進展により、生産年齢人口も減少していくことが見込まれます。

図表 区内人口の推移（実績・将来推計）

※ 年少人口と高齢者人口の割合の実績値は日本人のみで算出



(出典：杉並区統計書及び杉並区人口ビジョン (H27.9) CASE1)

\*1: 区の推計後、東京都や国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来人口推計でも、いずれもこれまでの推計と比較して人口減少の速度は緩やかになるものの、中・長期的には減少していくとしています。

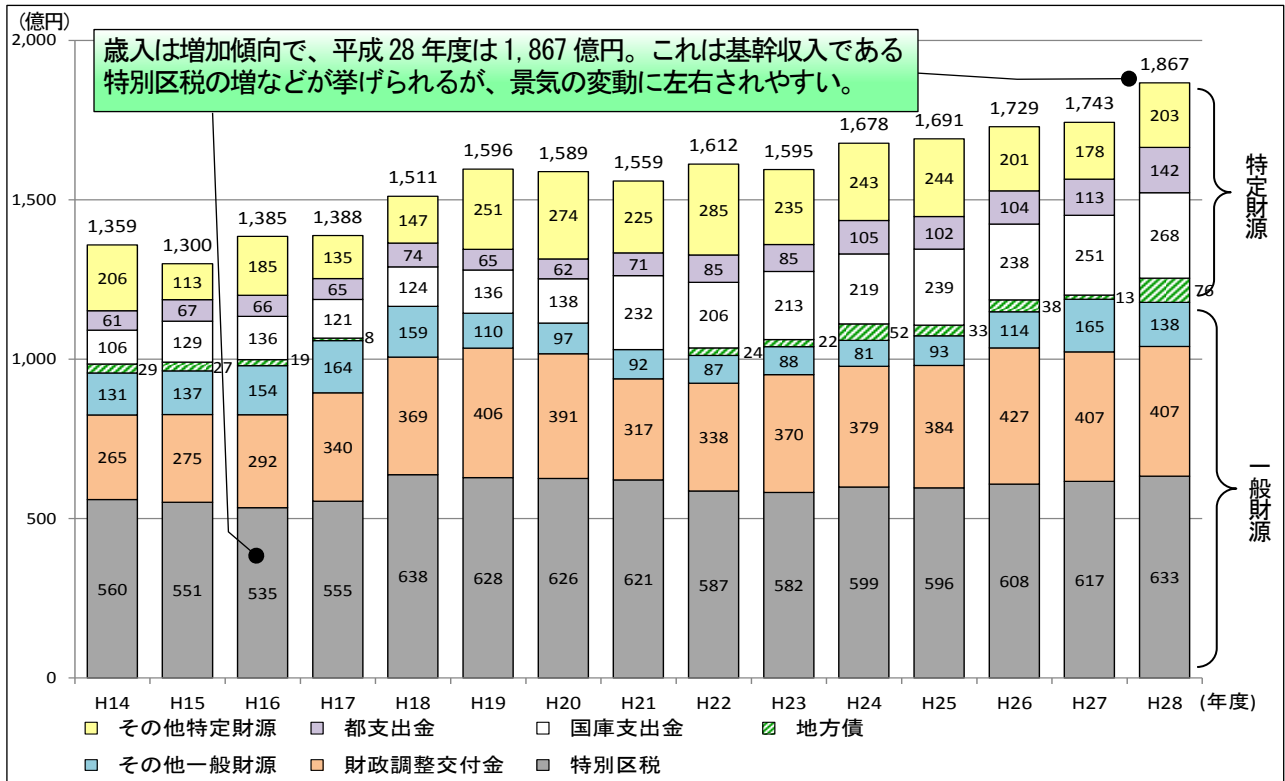
### 3 財政状況

- ・ 歳入は増加傾向ですが、将来的に人口が減少に転じる予測から、今後も区税収入が大きく伸び続けることは期待できない状況です。
- ・ 歳出は、社会保障関連経費が増加しており、今後も高齢化の進展等により伸びていくことが予想されます。



#### ● 歳入

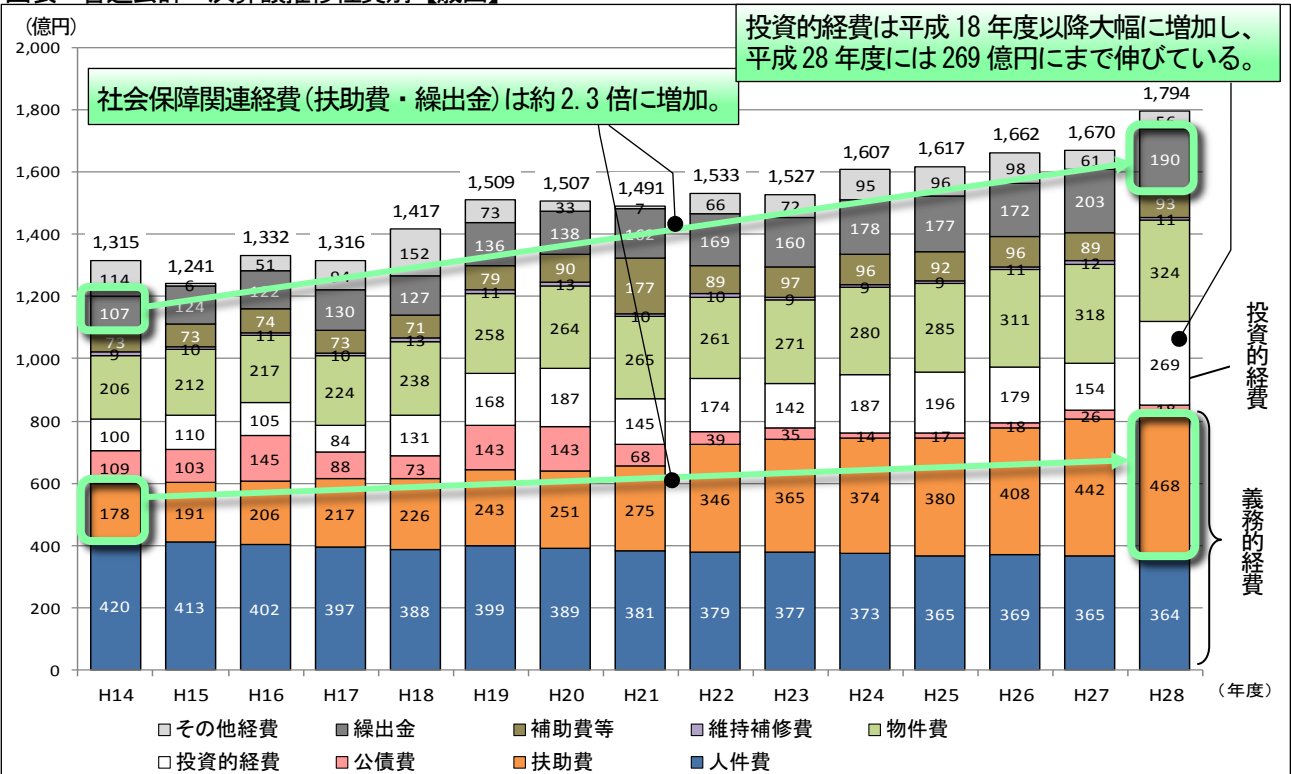
図表 普通会計\*2 決算額推移【歳入】



(出典：杉並区決算状況一覧表)

#### ● 歳出

図表 普通会計 決算額推移性質別【歳出】



\*2 普通会計は、各地方公共団体の財政状況の把握、地方財政全体の分析等に用いられる統計上、概念上の会計です。総務省の定める基準で、各地方公共団体の会計を統一的に再構成したものです。(出典：杉並区決算状況一覧表)

## 4 公共施設の状況

- 公共施設の保有量は84.1万㎡で、学校教育系施設が約半分です。
- 今後、改築等の検討が必要な築40年以上の建物は、全体の44%です。

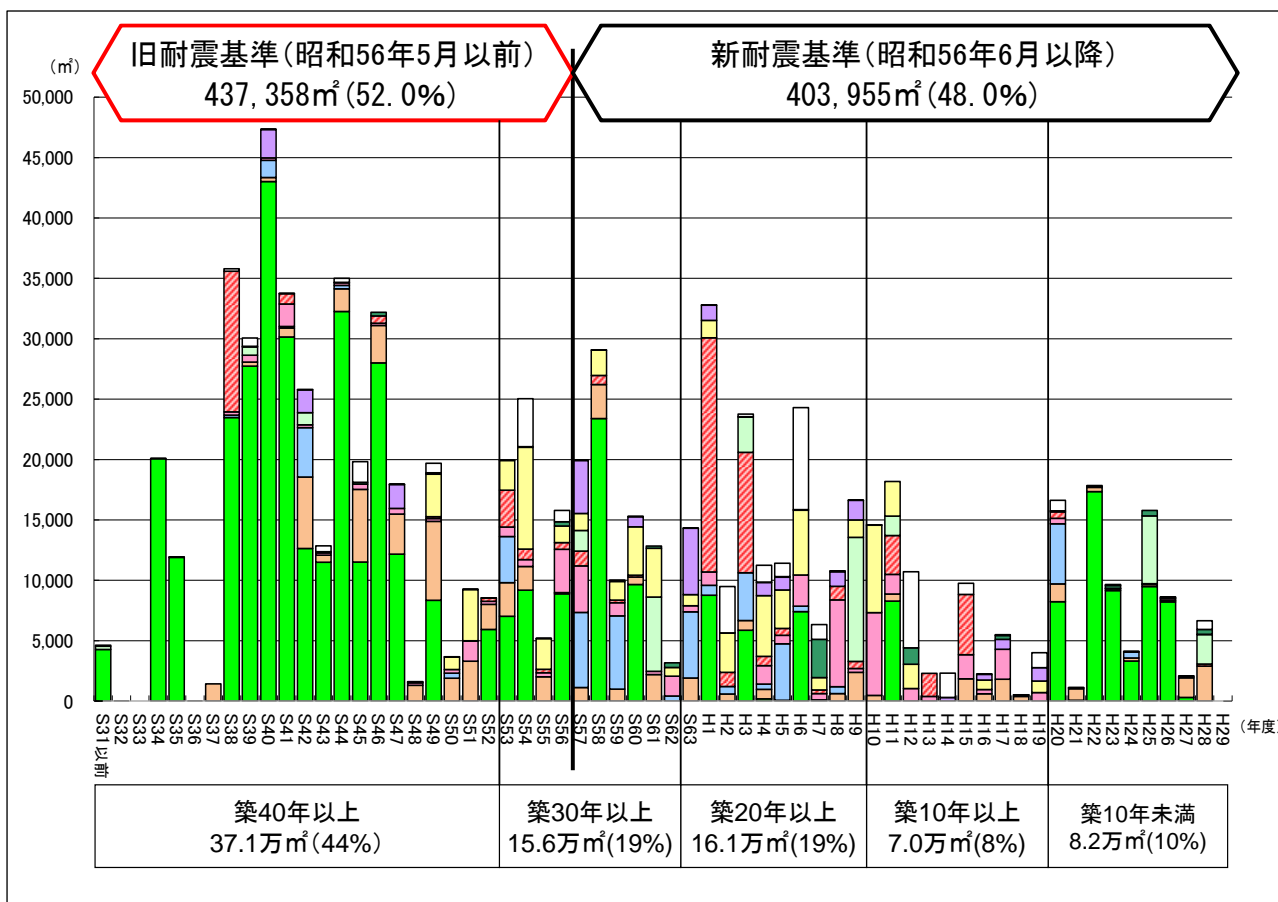


### ● 公共施設の築年別整備状況

- 築年別整備状況を見ると、大規模改修の検討が必要な築30年以上の建物が、全体の約63%を占めています。今後、改築等の検討を行っていく必要がある築40年以上の建物は、全体の約44%に上ります。
- 区が保有する建物のうち、旧耐震基準の建物は約43.7万㎡(約52%)、新耐震基準の建物は約40.4万㎡(約48%)となっています。

図表 築年別整備状況の推移

※築年度で表しており、月日は考慮していません。※グラフの色分けは、下の表と同様です。



用途の分類	延床面積	構成比	用途の分類	延床面積	構成比
学校教育系施設 (小学校・中学校等)	427,945㎡	50.9%	スポーツ施設 (体育館・プール等)	32,693㎡	3.9%
子育て支援施設 (保育園・子供園・児童館等)	73,880㎡	8.8%	社会教育系施設 (図書館等)	26,055㎡	3.1%
公営住宅 (区営住宅・高齢者住宅等)	73,376㎡	8.7%	公園 (公園管理事務所・公園便所等)	8,621㎡	1.0%
行政系施設 (庁舎・区民事務所等)	65,676㎡	7.8%	その他 (有料制自転車駐車場・公衆便所等)	37,615㎡	4.5%
保健・福祉施設 (保健センター・ゆうゆう館・障害者(児)通所施設等)	49,922㎡	5.9%	合計	841,313㎡	100.0%
文化系施設 (地域区民センター・区民集会所等)	45,533㎡	5.4%			

(出典：平成28年度固定資産台帳のデータを基に作成)

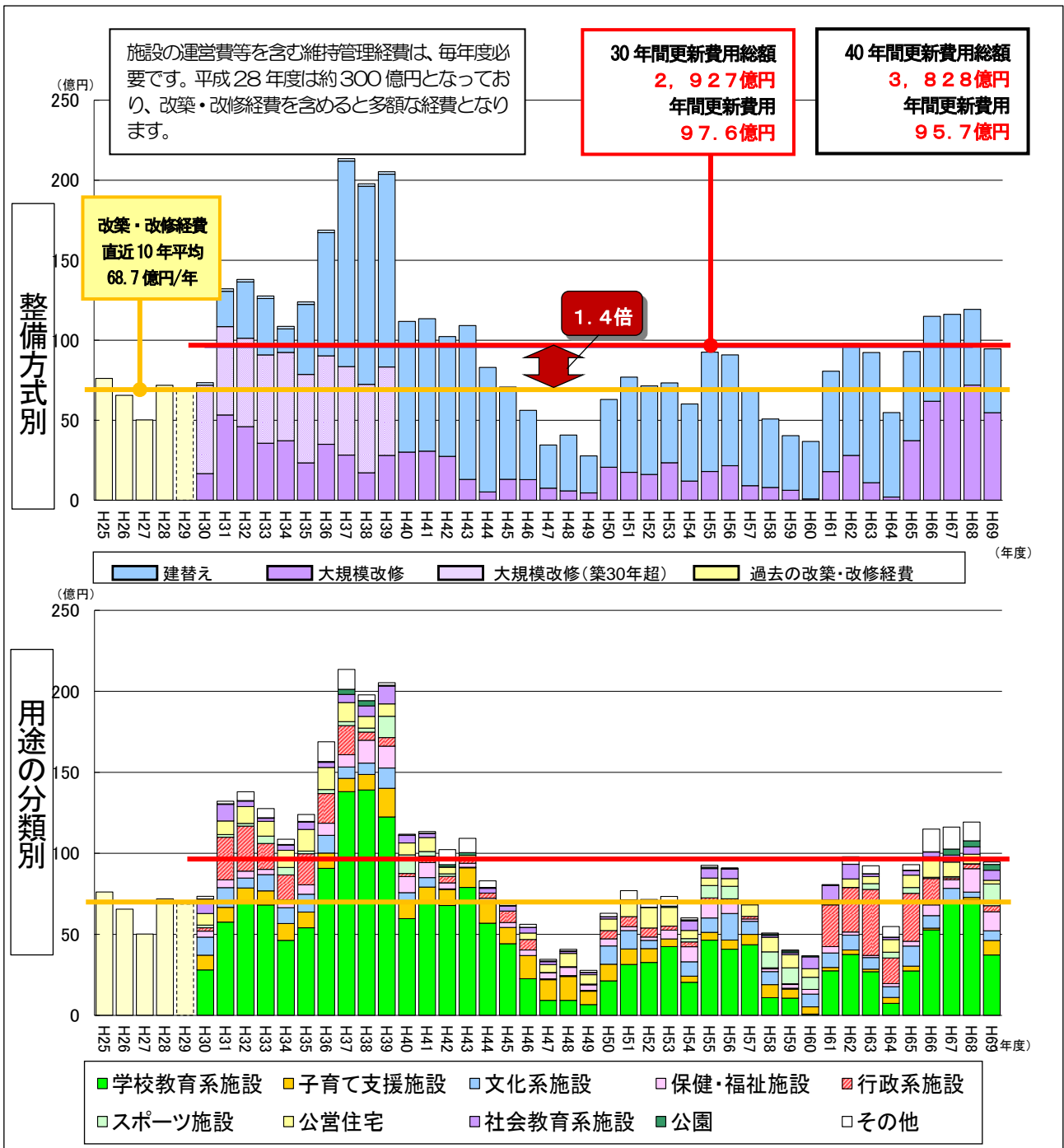
- ・ 試算上、改築・改修にかかる経費の年平均は、これまでの1.4倍です。
- ・ 平成40年代前半までに集中することが分かりました。
- ・ 建物の長寿命化、複合化・多機能化等による規模の適正化など、様々な手法により、経費の縮減と平準化に取り組む必要があります。



● 今後の改築・改修にかかる経費試算（60年で改築した場合）

- ・ 区の施設を今後も同規模で維持し続けた場合の30年間の将来更新経費は約2,927億円、年平均97.6億円となり、直近10年間の改築・改修経費の平均68.7億円の約1.4倍となります。
- ・ 今後、平成40年代前半まで、昭和30年代から40年代にかけて建設した学校教育系施設の改築が集中します。年度別に見ると、平成31年度から43年度の間は100億円を超える年度が集中し、最高では213億円もの経費が必要となります。
- ・ 今後の厳しい財政状況のなかで、これまでの1.4倍の経費を施設の更新に振り向けることは現実的に困難です。そのため、財産を有効活用し、更なる経費の縮減と平準化に取り組む必要があります。

図表 今後の改築・改修にかかるコスト試算<60年で改築>



（出典：平成28年度固定資産台帳のデータを基に作成）

## 5 財産の有効活用

- ・ 長寿命化が期待できる建物を築80年で改築する場合の試算を行いました。
- ・ 平成43年度までに集中していた経費が平準化されることが分かりました。



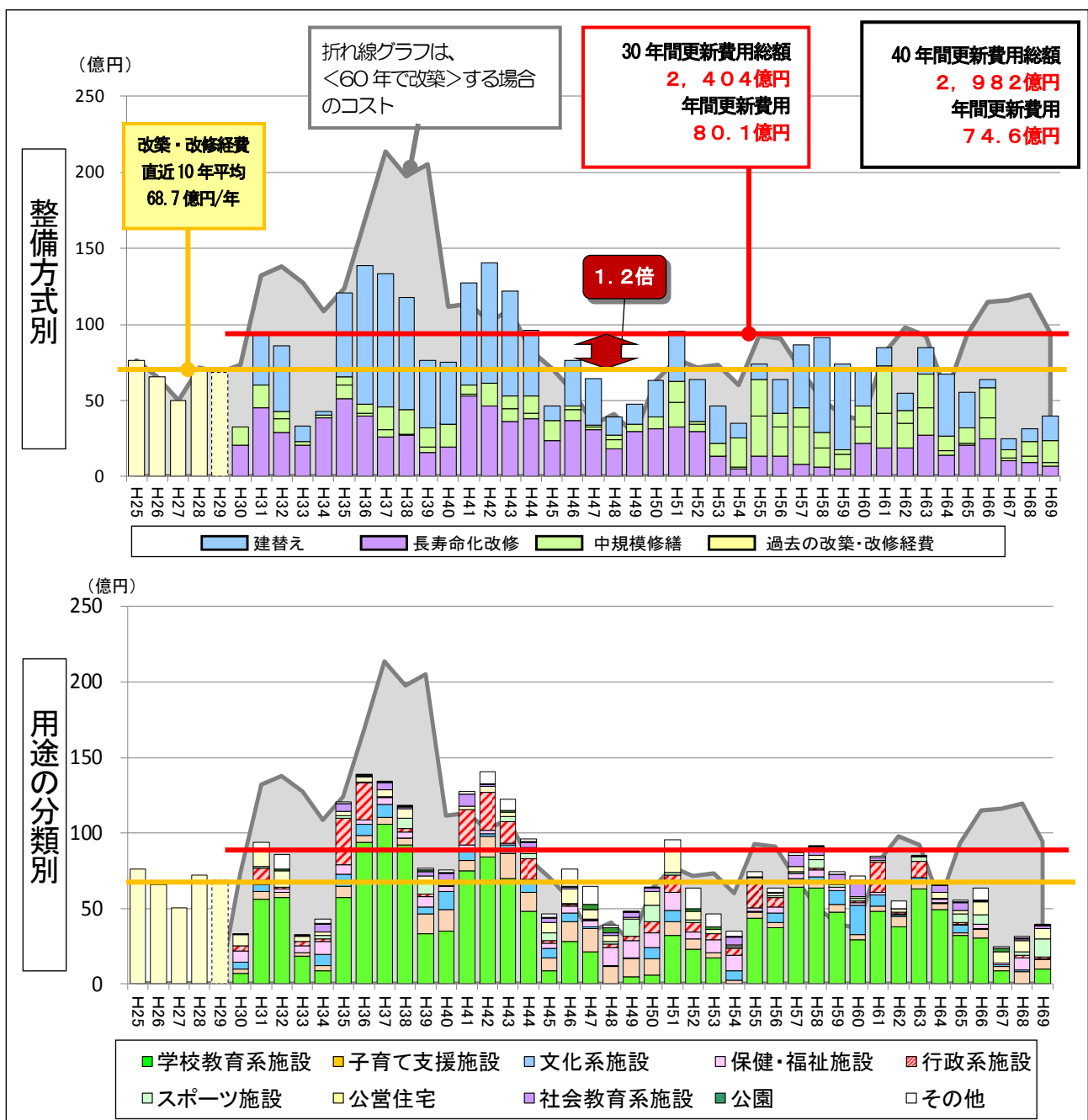
### ● 長寿命化の推進

- ・ 経費の縮減と平準化を図るためには、建物の長寿命化もひとつの手法です。
- ・ 長期間にわたって建物を使用するためには、構造躯体が健全であることが不可欠です。今回、簡易的に躯体の強度を把握したところ、長寿命化が期待できる建物が多く存在することが分かりました。

### ● 長寿命化した場合の改築・改修にかかる経費試算

- ・ 長寿命化した場合、30年間の将来更新経費は約2,404億円、年平均80.1億円となり、直近10年間の改築・改修経費の平均68.7億円の約1.2倍となります。
- ・ 築60年で改築した試算と比較すると、特に平成36年からの4か年に集中していた150億円を超える経費が平準化されることが分かりました。

図表 公共施設の建替え・改修にかかるコスト試算<80年で改築>



(出典：平成28年度固定資産台帳のデータを基に作成)

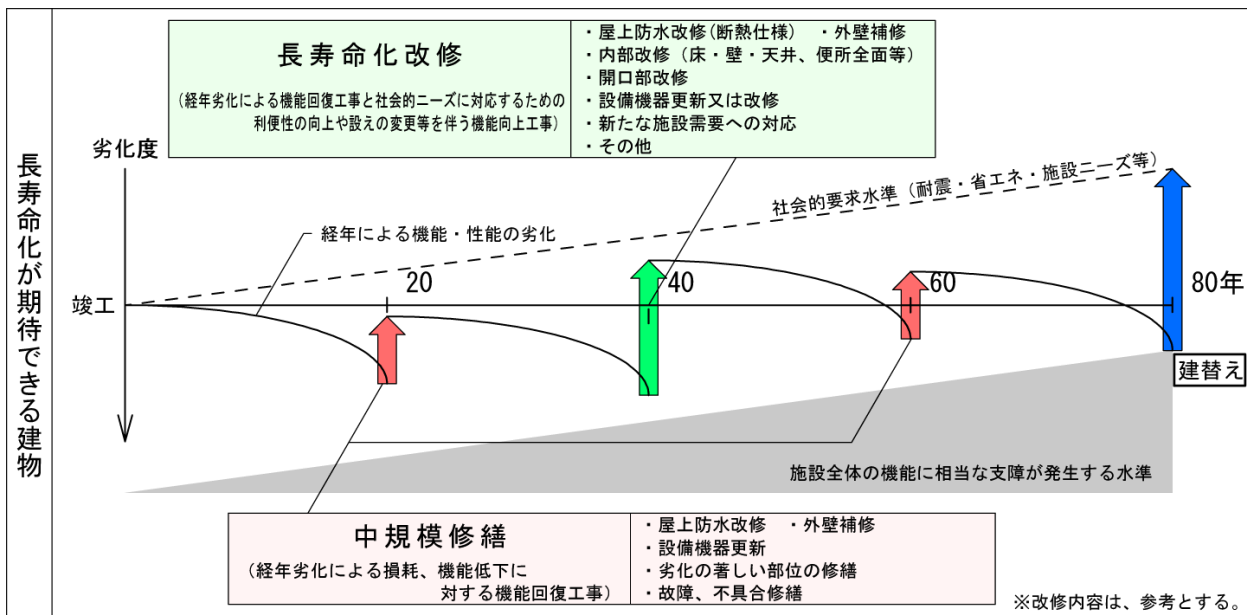
- ・ 建物は利用状況や自然環境等により、老朽化の進行が異なります。
- ・ 長寿命化を進めるためには、機能の回復や向上に向けた改修を、計画的に実施する必要があります。



### ● 長寿命化にあたっての課題

- ・ 長寿命化は有効な手法ですが、実施するためには、躯体の強度だけでなく、コンクリートの中性化の深さや鉄筋の腐食状況等の詳細調査が必要です。
- ・ 長寿命化の検討を進めるうえでは、メンテナンスサイクルを踏まえ、経年変化による機能回復と社会的ニーズに対応するための機能向上を目的とした改修も見据えながら考える必要があります。
- ・ 建物の劣化や損傷の進行具合は利用状況や自然環境等に応じ異なります。また、長寿命化を進めるにあたっては、将来の行政需要も踏まえた財政負担の平準化や近隣施設との複合化等の可能性も勘案し、建物ごとに改築時期を判断していく必要があります。

図 経費試算における長寿命化改修イメージ図



### ● 複合化・多機能化等による施設規模の適正化と運営・改築等に伴う民間活力の導入

- ・ 今回行った試算では、長寿命化を図ることにより、経費の一定の縮減と平準化を図ることが明らかとなりましたが、更なる経費の縮減を行うためには、現在の施設を同規模で更新するのではなく、複合化・多機能化等により、施設規模の適正化を図ることも必要です。
- ・ 施設の維持管理には、多額の経費（平成28年度実績約300億円）が必要なことから、施設運営の民営化等による維持管理の効率化を図る必要があります。
- ・ 建設経費の抑制、歳入の確保の観点からは、公的機関の活用や公的資金の投入だけでなく、民間の資金、経営能力、技術的能力の活用や土地信託手法、官民連携（PPPなど）手法の活用、民間活力の導入や公的施設の整備を条件とした売却（二段階一般競争入札方式）など、様々な視点から検討することも必要です。

## 6 地域実態マップ

## 区内全域を見てみよう



- 主な施設の保有状況、配置状況、老朽化状況を、視覚的に把握しました。
- 地域実態マップは、区民が利用する主な施設を、地域区民センターやゆうゆう館などの「用途」と、井草地域、西荻窪地域などの「7地域」という視点から分類し、まとめたものです。
- 同一地区内に、築50年以上の赤枠で囲われている施設が、複数存在することが分かりました。

人口：558,950人  
 区域面積：34.06km<sup>2</sup>  
 施設延床面積：84.1万m<sup>2</sup>(15m<sup>2</sup>/人)

	井草 人口：4.6万人				西荻窪 人口：7.6万人						荻窪 人口：9.0万人							
	1	2	3	4	5	6	7	8	17	18	9	10	11	12	19	20	21	22
スポーツ施設 (19)	10,279m <sup>2</sup> 上井草 スポーツセンター 井草森公園 運動場										2,449m <sup>2</sup> 妙正寺 体育館 5,865m <sup>2</sup> 大宮前体育館 2,324m <sup>2</sup> 荻窪体育館							
図書館 (17)	1,163m <sup>2</sup> 柿木 1,104m <sup>2</sup> 下井草				1,096m <sup>2</sup> 今川 1,195m <sup>2</sup> 西荻						1,061m <sup>2</sup> 南荻窪 4,397m <sup>2</sup> 中央図書館							
文化施設 (2)											杉並公会堂							
その他の集会施設 (3)					2,855m <sup>2</sup> 勤労福祉会館 3,598m <sup>2</sup> 杉並会館													
生涯学習施設 (5)											郷土博物館分館 250m <sup>2</sup> 西田ゆうゆうハウス							
地域区民センター (7)	3,375m <sup>2</sup> 井草				2,918m <sup>2</sup> 西荻						3,719m <sup>2</sup> 荻窪							
区民集会所 (10)	四宮 八成				西荻南						本天沼							
区民会館 (3)																		
区民事務所 会議室 (10)					上井草 上荻窪						清谷中通 荻窪							
ゆうゆう館 (32)	四宮 井草 下井草				善福寺 今川 西荻北 大宮前						桃井 天沼 荻窪 荻窪東							
児童館・学童クラブ (54)	上井草 四宮森 井草 桃五				善福寺北 善福寺 今川 西荻北 松庵 西荻南 桃井 今川北						本天沼 上荻 天沼 荻窪 宮前北 荻窪北 荻窪 荻窪東 荻窪南							
保育園 (44)・保育室等 (24)	上井草 四宮 井草 中瀬 下井草 下井草北 下井草南				善福寺 井荻 今川 西荻北 松庵 大宮前 宮前北 西荻窪 善福寺 上井草西						本天沼 上荻 天沼 荻窪 宮前北 荻窪北 荻窪東 荻窪南 荻窪第五 荻窪第三 荻窪第四							
子供園 (6)					西荻北													
小学校 (41)	5,182m <sup>2</sup> 三谷 6,139m <sup>2</sup> 四宮 5,963m <sup>2</sup> 八成 7,471m <sup>2</sup> 桃井五				5,253m <sup>2</sup> 桃井第四 5,134m <sup>2</sup> 井荻 5,293m <sup>2</sup> 桃井第三 4,838m <sup>2</sup> 松庵 5,077m <sup>2</sup> 高井戸第四						6,834m <sup>2</sup> 香掛 5,821m <sup>2</sup> 桃井第一 8,693m <sup>2</sup> 天沼 8,258m <sup>2</sup> 荻窪 4,779m <sup>2</sup> 桃井第二 6,653m <sup>2</sup> 西田							
中学校・養護学校 (24)	10,414m <sup>2</sup> 井草 7,129m <sup>2</sup> 中瀬				5,446m <sup>2</sup> 荻窪						8,270m <sup>2</sup> 井荻 6,469m <sup>2</sup> 天沼 5,958m <sup>2</sup> 神明 9,189m <sup>2</sup> 宮前 8,595m <sup>2</sup> 松溪							





# 様々な視点から公共施設の実態を把握しよう



## 7 用途別の実態把握

- 地域区民センターやゆうゆう館などの用途別に、施設の維持管理にかかる経費や施設の利用状況、老朽化状況などの現状を把握しました。

～地域区民センター・区民集会所の例～

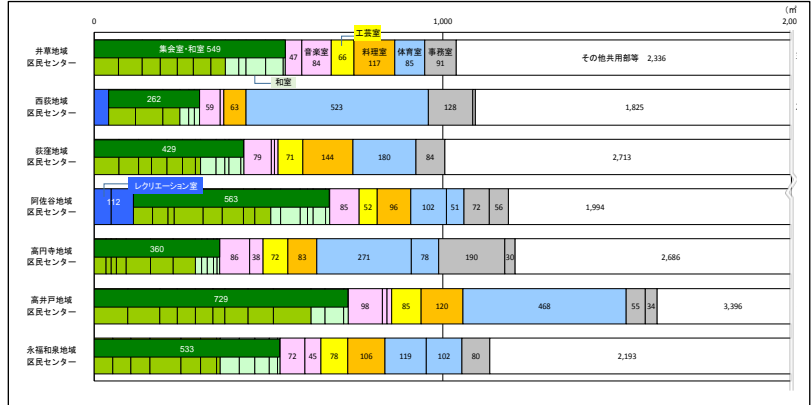
### 把握① 施設一覧

- 施設ごとに、延床面積、建築年度、併設施設・機能をまとめました。

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度	構造 (主たる建物)	併設施設・機能							
					その他集会所施設	高齢者支援施設	図書館	生涯学習施設	児童館・学童クラブ	障害者福祉会館	学校	その他
1 井草地域区民センター	下井草5-7-22	3,374.83	平成5	RC造								
2 西荻地域区民センター	桃井4-3-2	2,918.41	昭和59	RC造	○							○
3 荻窪地域区民センター	荻窪2-34-20	3,719.15	昭和53	RC造								○
4 阿佐谷地域区民センター	阿佐谷南1-47-17	3,183.26	-	-								○
5 高円寺地域区民センター	梅里1-22-32	3,893.77	昭和63	RC造			○					○
6 高井戸地域区民センター	高井戸東3-7-5	5,010.89	昭和57	RC造	○		○					○
7 永福和泉地域区民センター	和泉3-8-18	3,327.54	平成3	RC造								○

### 把握② スペース構成

- 施設ごとに、保有している部屋の種類やその数、面積を整理しました。



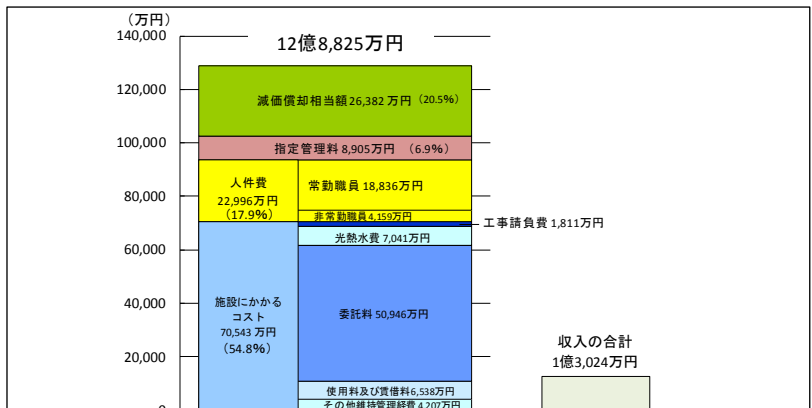
### 把握③ 利用状況

- 利用者数や施設別・部屋別稼働率から、各施設がどのように利用されているかを把握しました。

部屋名	面積	施設稼働率	時間帯					備考	
			9~12時	13~15時	16~18時	19~21時	全体		
第1集会室	69.31㎡	40%	50%	42%	31%	21%	41%	一体使用可	
第2集会室	68.89㎡		35%	35%	31%	21%	31%		
第3集会室	51.86㎡		41%	47%	23%	9%	30%		
第4集会室	48.75㎡		27%	40%	23%	20%	27%		
第5集会室	45.65㎡		35%	57%	26%	11%	32%	一体使用可	
第6集会室	50.14㎡		50%	46%	41%	31%	42%		
第7集会室	41.06㎡		71%	78%	55%	68%	68%	一体使用可	
第1和室	15畳		47%	42%	26%	17%	33%		
第2和室	6畳		37%	40%	31%	35%	36%	一体使用可	
第3和室	15畳		47%	29%	20%	14%	28%		
第4和室	21畳		49%	19%	20%	9%	24%	第1又は第2和室利用時のみ使用可	
水屋	5.54㎡						12%		
第1音楽室	46.7㎡			48%	58%	62%	60%	57%	
第2音楽室	84.33㎡			45%	48%	34%	48%	43%	

### 把握④ コスト状況、運営状況

- 行政サービスにかかるコストと行政サービスを行う財産（ストック）の両面から実態を把握しました。
- 用途ごとのトータルコストと各施設のコストを把握しました。



## 7-1 利用状況

### 利用状況を10年間で見てみよう



- 10年間の利用状況の推移を見ることで、施設に求められているニーズの変化を把握します。

～児童館・学童クラブの例～

児童館や学童クラブでは、10年間の利用状況から、利用者層が変化していることが分かりました。

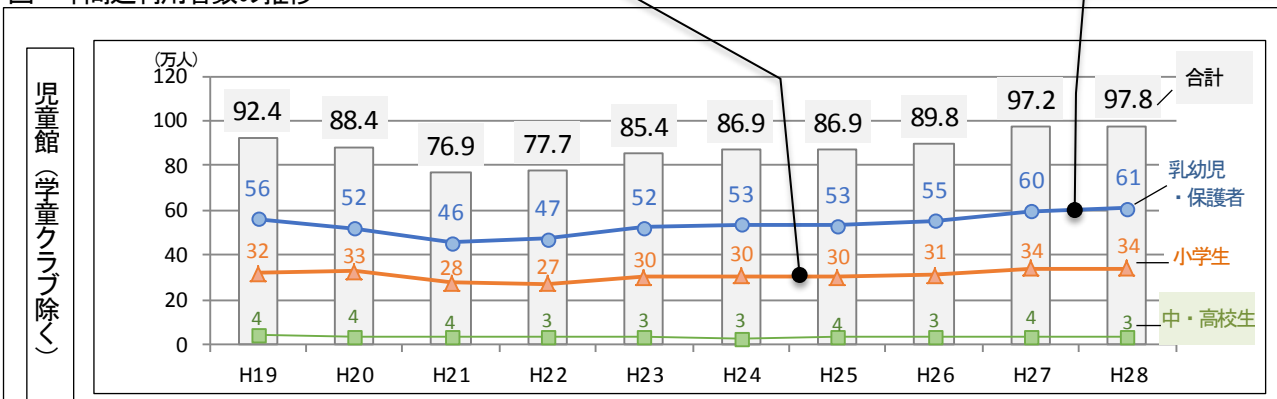


- 児童館（学童クラブを除く）全体で約5.4万人（約6%）増加しています。
- 児童館（学童クラブを除く）では、乳幼児・保護者の利用が増えています。<sup>\*1</sup>  
小学生の来館も30万人前後で推移していることが分かります。<sup>\*2</sup>
- 学童クラブは10年間で約21.6万人（約42%）増と、急激に増加しています。<sup>\*3</sup>

<sup>\*2</sup>: 一般来館する小学生も、延30万人前後で推移し、平成28年度は延34万人。

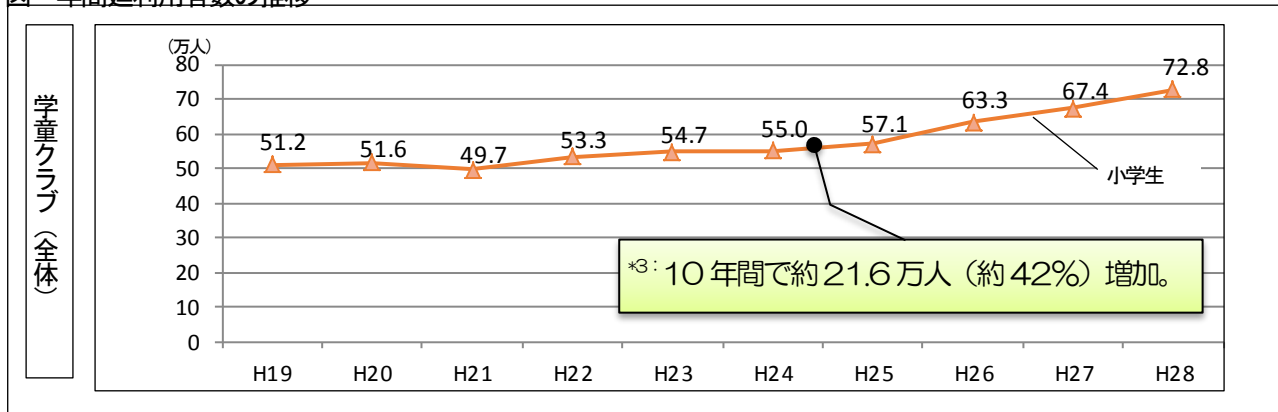
<sup>\*1</sup>: 乳幼児・保護者の利用は約4.5万人（約8%）増加。

図 年間延利用者数の推移



※サンカード利用は含みません。

図 年間延利用者数の推移



<sup>\*3</sup>: 10年間で約21.6万人（約42%）増加。

今後も、施設に求められているニーズを的確に把握しながら、再編整備を進める必要があります。



## 施設や部屋の稼働率を見てみよう



- 施設や部屋の稼働率を見ることで、利用実態の違いを把握します。

～ゆうゆう館の例～

- ・ ゆうゆう館の稼働率は、施設によってばらつきがあります。<sup>\*1</sup>
- ・ 同じ洋室でも部屋の大きさによって稼働率が異なることや<sup>\*2</sup>、部屋の設えによっても変わることが分かりました。また、同じ部屋でも、時間帯によって稼働率が異なります。<sup>\*3</sup>

集会施設でも同じような傾向があることから、改築や改修に当たっては、部屋の利用実態を踏まえて、検討する必要があります。



<sup>\*3</sup>: 午前午後とも90%を超えています  
夜間は、36%となっています。

表 施設別・部屋別稼働率（平成28年度）一部抜粋

施設名	施設稼働率	部屋名	面積	時間帯				備考
				午前	午後	夜間	全体	
ゆうゆう井草館	45%	洋室1	65.7㎡	92%	98%	36%	77%	
		洋室2	27.7㎡	69%	88%	52%	71%	
		洋室3	16.91㎡	22%	46%	10%	27%	
		茶室	16.5㎡	6%	9%	5%	7%	
ゆうゆう阿佐谷北館	51%	洋室1	62.1㎡	93%	94%	51%	81%	一体使用可
		洋室2	28.9㎡	67%	86%	25%	61%	
		洋室3	17.8㎡	43%	74%	44%	54%	
		茶室	13.4㎡	6%	13%	3%	8%	
ゆうゆう善福寺館	56%	洋室1	46㎡	94%	92%	36%	76%	一体使用可
		洋室2	42㎡	80%	78%	37%	66%	
		和室	30.2㎡	61%	64%	19%	49%	
		茶室	14.4㎡	41%	37%	19%	33%	
ゆうゆう久我山館	41%	洋室1	47.9㎡	75%	85%	46%	70%	一体使用可
		洋室2	31㎡	80%	91%	45%	74%	
		洋室3	17.3㎡	21%	25%	2%	17%	
		茶室	14.9㎡	7%	6%	0%	5%	
ゆうゆう浜田山館	32%	洋室1	54.9㎡	80%	91%	13%	64%	一体使用可
		洋室2	26.7㎡	44%	62%	10%	40%	
		洋室3	24.1㎡	27%	33%	0%	21%	
		茶室	20.3㎡	1%	7%	0%	3%	

<sup>\*1</sup>: 同じゆうゆう館でも、施設によって稼働率が異なります。

<sup>\*2</sup>: 洋室1・洋室2は、75%を超えています  
洋室3は20%程度となっています。

## 7-2 コスト状況

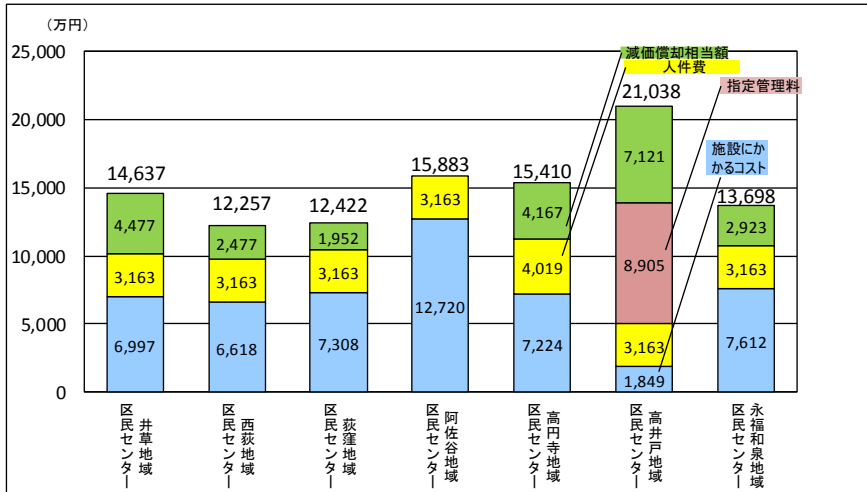
### 施設にかかる経費を見てみよう



- 施設のトータルコストや利用1コマ当たりコスト、床面積1㎡当たりコストを把握しました。

～地域区民センターの例～

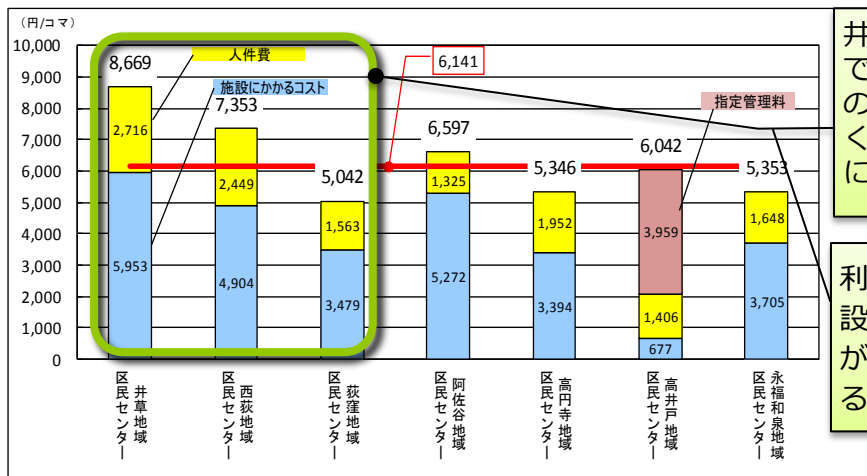
《施設別トータルコスト（地域区民センター）（平成28年度）》



- 施設の維持管理にかかる経費を中心に、人件費や事業運営費、減価償却相当額も含めたトータルコストを把握しました。



《施設別 利用1コマ当たりにかかるコスト（地域区民センター）（平成28年度）》

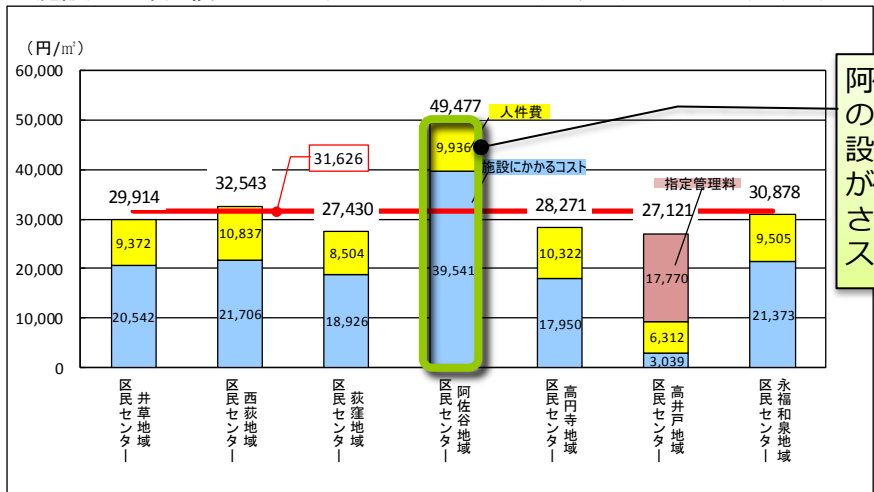


井草、西荻、荻窪の地域区民センターでは利用コマ数に違いがあります。そのため、施設別トータルコストは大きく変わりませんが、利用1コマ当たりにかかるコストに差が生じてきます。

利用1コマ当たりコストを見ると、施設のトータルコストは高くても、利用が多ければ、利用1コマ当たりにかかるコストが下がることが分かります。

※減価償却相当額及び工事請負費は除く

《施設別 床面積1㎡当たりにかかるコスト（地域区民センター）（平成28年度）》



阿佐谷地域区民センターは借上げ施設のため、施設にかかるコストが他の施設よりもかかります。また、延床面積が他の地域区民センターより比較的小さいことから、1㎡当たりにかかるコストに差が生じてきます。



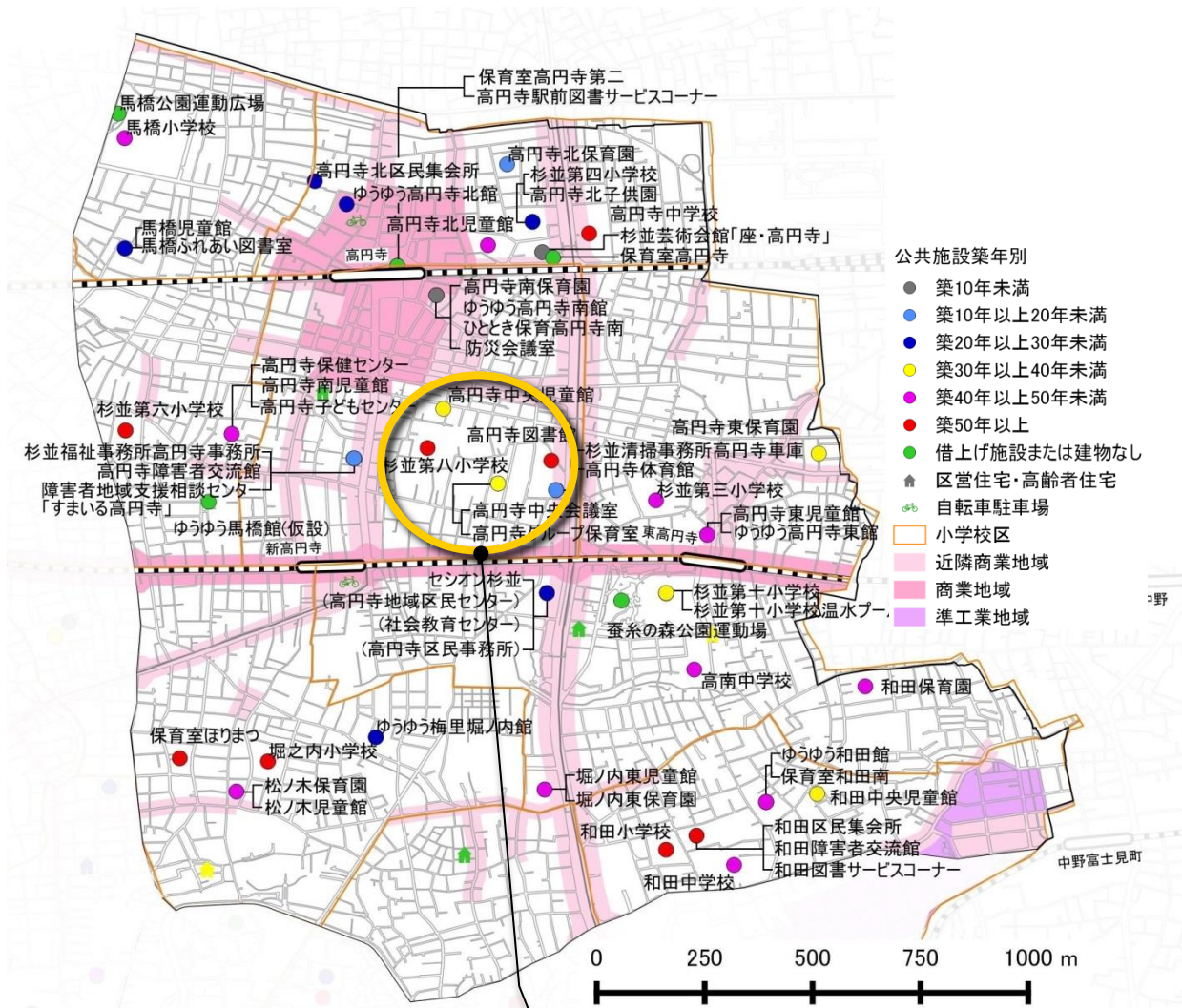
## 8 7 地域別の公共施設の状況

## 地域ごとに見てみよう



- 地域ごとに、施設を築年数で色分けして、配置や老朽化の状況を視覚的に把握しました。

～高円寺地域の例～



築50年以上の赤丸の施設が複数あることが分かります。

地域内の近接した施設が、同時期に更新時期を迎えます。

⇒ 面的な再編整備を検討することも必要です。



# 施設の機能を見てみよう



- 地域区民センターの集会室やゆうゆう館の洋室などの同じ機能を持つ部屋を一覧化し、それぞれの地域における貸室の利用状況を横断的に把握しました。

～井草・高円寺地域の例～

## <井草地区>

施設名	会議集会		
	部屋名	定員	稼働率
井草地域区民センター	第7集会室	20人	68%
	第3集会室	26人	30%
	第4集会室	26人	27%
	第5集会室	26人	32%
	第6集会室	26人	42%
	第1集会室	39人	41%
四宮区民集会所	第2集会室	39人	31%
	第2集会室	20人	48%
八成区民集会所	第1集会室	40人	62%
	第1集会室	12人	80%
ゆうゆう四宮館	第4集会室	18人	60%
	第2集会室	21人	71%
	第3集会室	21人	51%
ゆうゆう井草館	洋室2	12人	30%
	洋室1	28人	69%
ゆうゆう下井草館	洋室3	8人	27%
	洋室1	13人	71%
ゆうゆう下井草館	洋室2	32人	77%
	洋室3	11人	16%
	洋室1	17人	45%
	洋室1	38人	60%

## <高円寺地区>

施設名	会議集会		
	部屋名	定員	稼働率
高円寺地域区民センター	第2集会室	6人	72%
	第3集会室	6人	73%
	第4集会室	12人	62%
	第1集会室	14人	67%
	第8集会室	38人	62%
	第9集会室	38人	59%
高円寺北区民集会所	第10集会室	38人	62%
	第3集会室	10人	71%
	第6集会室	12人	69%
	第1集会室	20人	68%
	第2集会室	20人	64%
	第4集会室	20人	59%
和田区民集会所	第5集会室	20人	61%
	第1集会室	20人	51%
	第3集会室	20人	55%
社会教育センター	第2集会室	30人	53%
	第5集会室	26人	60%
高円寺中央会議室	第6集会室	26人	61%
	第7集会室	26人	56%
	洋室1	30人	72%
	洋室2	30人	69%
	洋室1	22人	75%
	講座室	22人	68%
	洋室2	16人	66%
ゆうゆう高円寺北館	洋室3	5人	31%
	洋室1	-	79%
	洋室1	37人	86%
ゆうゆう馬橋館(仮設)	洋室2	27人	87%
	洋室1	29人	86%
ゆうゆう高円寺南館	洋室2	13人	66%
	洋室1	24人	68%
ゆうゆう高円寺東館	洋室1	24人	68%
	洋室2	20人	59%
	洋室3	4人	7%
ゆうゆう和田館	洋室1	20人	59%
	洋室2	20人	59%
ゆうゆう梅里堀ノ内館	洋室1	39人	80%
	洋室2	11人	44%

井草地域では稼働率が30～40%程度の部屋も多くあります。

高円寺地域では、ほぼすべての集会室が稼働率50%を超えています。

同じ機能を持つ施設でも、地域によって稼働率にばらつきが生じていることが分かりました。



一律に施設を配置するのではなく、地域の実情に応じて、配置数や部屋の広さ、部屋数などを検討する必要があることが分かります。

## 「杉並区施設白書 2018」概要版

平成30年1月発行

編集・発行

杉並区政策経営部企画課施設再編・整備担当

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

TEL (03) 3312-2111 (代表)



☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>